

岐阜分室だより (出張所長奮戦記)

岐阜分室長 大河内 八郎

夏の暑い日、いつも見慣れたコンクリート格子
枠護岸を見ながら出張所長は、帰化植物に覆われた
高水敷を見てまわったとき、なにやら対岸から水面
を掻き分けこちらに泳いでくるものを発見した。鮮
やかな二本線を見せているシマヘビである。今時見
られることの少ない蛇である。コンクリートは良く
焼けている、熱い。とても蛇が登れる温度ではない、
火傷をする。これでは移動もままならない。カエル
だって同じことだ。シマヘビは、格子枠に登る場所
を探していたが諦め、下流に流れて草むらのある岸
辺で姿を消していった。

何か改良する方法はないものか？

草むらを繁茂させることに何か良い手だては・・。



格子枠護岸（改良前）（H12/10）

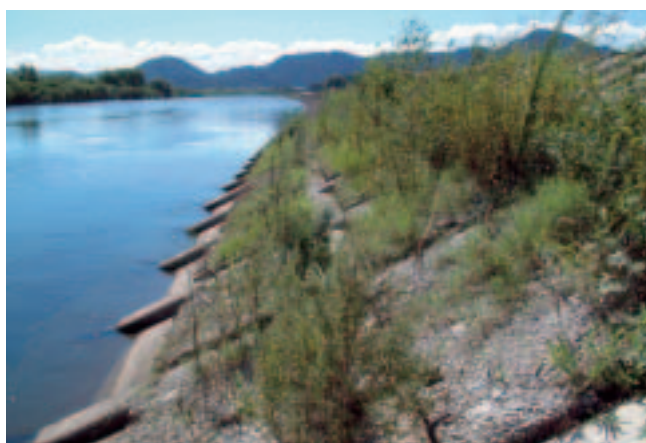
完成した低水護岸を余り金をかけずに出来る工法
は何がよいだろうかと。

ポーラスコンクリートを表面に接着させれば植物
は繁茂するだろう。しかし水分の保水は干天続きで
は持たないのではないだろうか。ポーラスコンクリ
ートの厚さはどのくらいが適当か、植生が繁茂した
とき洪水時に流失してしまわないか、とあれこれ考
えコンクリート二次製品メーカーに問い合わせた。
結果法枠中詰めブロック製品、形状、タイプ、重量、
強度を見て更に植栽種の選定と悩むことしきり、こ
の河川で外来種は止めよう。昆虫類がその葉っぱを
食するか、わからん。外来植物種では生物の多様化
は図れない。植物は繁茂しても昆虫類が寄りつか
ないのではダメだ。製品の植物種を見ればカタカナ
ばかりの外来植物である。結果的に出張所長は、厚さ



法枠中詰めポーラスブロック完成時（H12/11）

120ミリ、単一ポーラス、重さ210kg、植
種は無播種とし、出来る限りブロックの隙間に土
を入れ自然植生の根付くことを期待した。その後
の管理に気に病む所長は芽が出るか芽が出るかと
まるで猿カニ合戦の柿の種の如く見回ったとき。
その甲斐あって、度重なる小出水に土と種を運ば
れ植物が生えだした。草が大きくなるにつれ、出
張所長の顔がさえない、上流から外来種のセイタ
カアワダチソウが生えているのでないか。せつせ
と除去するもののまだあるあるオオアレチノグサ、
アメリカセンダングサと帰化植物がはびこっている。
まだ続く多自然型護岸への取り組みと、出張所長
の苦悩と挑戦の日々が・・・・・・・・・・。



完成後（H13/9）